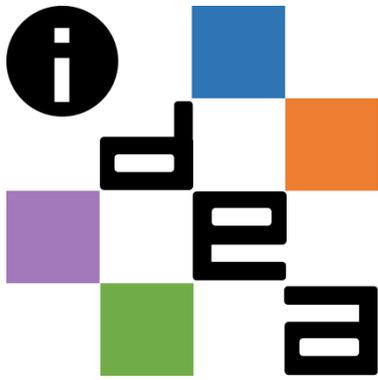


NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア



2017

11月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- | | | |
|---|---------|----------------------|
| 2 | 二言三言 | 一関市の魅力と造形教育 |
| 4 | 団体紹介 | 花泉の地域医療をサポートする会 (花泉) |
| 5 | 地域紹介 | 川崎町 新町会 (川崎) |
| 6 | 企業紹介 | 伊大建築 (藤沢) |
| 7 | センターの〇〇 | センターの自由研究 おらほの〇〇坂 |

一関市の魅力と造形教育

対談者 造形おじさん（幼児造形指導員） 菅原順一さん
聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

50年ぶりの郷帰り

【小野寺】本日は取材を引き受けてくださりありがとうございます。菅原さんは「造形おじさん」という名前で活動していらっしゃるようですが、菅原さん自身のことや活動についてお伺いしていきたいと思います。



造形おじさん（幼児造形指導員）
菅原順一さん

【菅原】僕は宮城県の気仙沼市生まれで、山形大学の美術科を卒業後、中学校や短大、保育園・幼稚園で美術や造形を教える仕事をしていました。退職し昨年磐井町の実家に戻ってきましたが、一関に住むのは50年ぶりになります。都会を離れ一関でのんびりとしたスローライフを楽しもうと思っていたのに、こちらに来てからも様々な人達との出会いがあり、その繋がりからだんだんスローライフではなくなってきました。

【小野寺】こっちに来てから、どんな方との出会いがありましたか？

【菅原】たくさんのお会いが今も続いていて、それぞれが繋がっています。こぎん刺しの山崎さんの展示会場となったてんぼろ山荘の三浦夫妻、紹介してくれた佐惣珈琲豆店夫妻、和紙の人形作家・木住野さん、舞踏家のミミさん、今年の全国母親大会（岩手）の中央舞台装飾を依頼された鈴木まきこさんたち、そして「新垣勉 おしゃべりコンサート」を企画した吉田恵子さんとか。新垣勉さんのコンサートでは、舞台の横断幕作製の依頼があり昨年招待されたんだけど、こん

な取り組みが6年も続いていたことに感動しました。市民からカンパを集めて中学2年生をコンサートに招待するこのコンセプトには感心です。学生たちの真剣な態度にも感激したし、最後の全体合唱「翼をください」が自然に2部合唱となり新垣さんの声と混ざり合う、これは感動でした。僕は神奈川の川崎に住んでいたんだけど、人口が100万人を超える大都市ではこうした企画は作りにくいし、エリアが広すぎてまとまらない。

【小野寺】“市民のカンパで運営している新垣勉さんのコンサートのような企画は、100万人規模の川崎では作りにくい”というのは、一関ぐらいの規模だからこそ、こういうことができるのでしょうか。

【菅原】もし川崎でこれをやろうとすると、企画を立てた組織が、自分達の関わりのある人達に呼び掛けてやったとして「どこまで協力を広げ、どれだけの人を集約できるか」、それが多分課題になると思うんだよね。都市があまりにも巨大すぎて、まとまりをつくるのがかなり難しいんじゃないかな。

問題は都市の人間関係で、大人と子どもとの関係をこのような発想で企画するのは、ある程度まとまりのあるサイズのまちだからこそ生まれるもので、巨大都市では、そういう発想にならないというところじゃないかな。しかも中学校は無数にあるわけだから全校は招待できないし、絞るとしてもどのように？という話にもなるでしょう。

【小野寺】一関市では中学校数が決まっているから、それも実施できる条件になっているのかな。

大都市と一関の生活を比べて

【小野寺】一関に来てみて実際どう感じていますか？

【菅原】一関は僕の故郷でもあるから、ある程度知ってるつもりだったけど、実際に住んでみると今まで知らなかったことがたくさん！まちのつくりもコンパクトで全体が見えるし、観光地に隣接してるし、音楽も美術も、様々な場所で様々な人たちが様々な活動を

自主的に繰り広げている。一関という地方都市だからこそやれる活動がたくさんある。

都会では、映画一本見るためにも駅までバスに乗り、電車を乗り継ぎ、映画館で整理券を受け取り、開演時間を待ち、やっと見て同じ行程で家に戻る。何をしても時間のロスが多い。実家に戻ったら映画を見るにも家から2分、新幹線の駅から家までは12分、どこへ移動するにも渋滞も時間のロスもない。大都市では考えられない生活がここでは実現している。

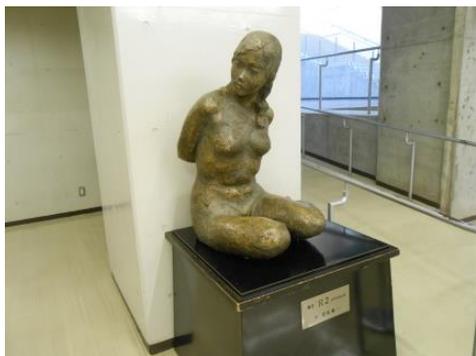
【小野寺】確かに時間の使い方は大きく違いますよね。



【菅原】そして、僕の家の庭にも小さな畑を作ってるんだけど、東京だとこんなスペースはまず作れない。ここでは自分たちが食べる分の野菜を自分たちで作る人が多く、しかも「買った野菜よりうまいものを作ろう」と皆頑張るんだよね。「苗や土作りは、こうでなきゃいかん」とか〜(笑)。野菜は次々にできて、自分たちだけでは食べきれず、隣近所や友達に分け与える。しかもその時々旬の野菜を持ってきてくれるから、おいしいものが食べられる。お花もいつもいただいて途切れることがないし、本当に嬉しいよ。

【小野寺】頂き物に関しては、食わず嫌いの物もあるけど「せっかく貰ったから食べてみようか」と思いますよね。お店で買うものはい自分の好きなものばかりになりがちだし、お金を払ってまで嫌いなものを買わないけど、頂いた物から興味が広がるというのも魅力なんでしょうね。

【菅原】山菜や、鹿・熊の肉など、珍しいものが次々に手に入る。おもしろいね。もっと早く一関市に来ればよかったよ。



菅原さんが大学生の時に制作した彫塑作品。卒業の時に寄贈し50年近く一関文化センターの中に飾られています。

造形を通じて身につく力

【小野寺】菅原さんは、現在一関市内の学童施設や老人介護施設で造形を教えているということですが、そのような活動や今までの造形指導を通して、どのようなことを感じましたか？

【菅原】僕は短大保育科の造形の教員で幼稚園や保育園でも造形を教えてきたんだけど、幼児の造形指導は幼児特有の指導方法が必要になる。小さい子どもの場合は「〇cmで切つてね」などという指示ができないから「三本指の幅で線を引いて切つてね」とか「手のひらの大きさまで粘土を伸ばしてね」って、自分の身体を使って指示するんだよね。最も大きな問題は、月齢差の問題。同じ3歳児でも4月生まれの子と3月生まれの子では発達の違い、それなりの配慮が必要になる。

【小野寺】そう言いますよね。4月に生まれた子と、1〜3月に生まれた子では全然違うらしいですよ。

【菅原】1年近く発達の違う子がひとつのクラスに混在するわけで、小中学校での月齢差はほとんど問題にはならないのに、理解力の幅も身体能力も違う幼児の指導は、造形指導も、その配慮がなされなければ上手くはいかない。

【小野寺】なるほど。

【菅原】子どもが自立していく過程で、幼児の造形はとても大事で、生活能力の基礎がつくられる時期でもある。でも小学校や中学校の美術教員養成課程はあるのに、幼児の造形を専門にして育てるような教育機関はない。長年、子どもの造形に関わってきた僕達からすると、小学生になる前の幼児の造形こそ大事にすべきで、子ども達の基本的な生活能力の分厚さみたいなものは、小学校にいったら頑張ろうってかなり無理があると思う。幼児の時の発達に見合った表現活動やモノを作り出していく生活経験はその子の生き方に関わると言っている。日本はそこがかなり遅れていると言ってもいいかもしれないね。



菅原さんの造形は、子どもから高齢者まで簡単に作れて楽しく遊べる工夫がいっぱいです。

菅原順一さんへの連絡先

電話:0191-23-9012(自宅)

e-mail:sugawara.junichi@gmail.com

※紙面で紹介できなかったお話は「こぼれ話」としてブログでご紹介しています。

http://blog.canpan.info/ichinoseki/category_15/1

団体 紹介



9月に「小さな親切実行賞」を受賞
(賞状を持っているのが会長の宇津野さん)

～基本情報～

- ◆会 長：宇津野 利子 さん
- ◆連 絡 先：〒029-3101
一関市花泉町花泉字馬場 30
- ◆電 話：0191-82-2164

目標は‘看取れる’地域 ～地域で守るべき医療体制とは～

ふりまわされてきた花泉の地域医療

「あの時もう少し先生たちに寄り添ってあげていれば…」そう後悔の念をにじませるのは「花泉の地域医療をサポートする会」の発起人の1人であり、3代目会長の宇津野利子さん。きっかけとなったのは花泉唯一の公立病院（現・花泉地域診療センター）の無床化問題でした。

花泉地域診療センターは昭和32年に「岩手県立花泉病院」として66病床で移転新築されました。その後、伝染病床の併設、廃止による病床の増減を経て、平成18年に磐井病院の附属病院となりますが（岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センター）、19病床に激減。平成21年には岩手県全体で県立病院の再編・見直し等が検討され、病床の休止という事態に追い込まれます。

このことを受け、平成22年12月に立ち上がったのが同会。この年の4月から、診療センターは民間運営で19床を復活させていたこともあり「病床を守りたい」という5人の町内有志の呼びかけに賛同した地元住民たちによる結成でした。しかし民間運営は2年で幕を閉じ、平成24年4月、診療センターは「岩手県立磐井病院附属花泉地域診療センター」として県立に復帰するとともに、またも無床化となってしまったのです。

自分たちから寄り添っていく姿勢へ

宇津野さんの後悔となっている出来事があったのはこの頃でした。県立復帰後の診療センターにはたった1人の医師しか配属されず、心身ともに無理がたたり、短期間で離職されたそうです。その時に強く感じたのが、病院や医師がいるということが「当たり前じゃない」ということ。「感謝しなければいけない存在のお医者さんに、負担がかかりすぎているのではないかー」この

経験から医師とのコミュニケーションの大切さを感じ、「お医者さんが患者たちにあたたく接することができるように、精神的な余裕を創り出せるようなサポート」を目指すようになったとか。

「医師は責任感と共に孤独を抱えがち。地域との交流の機会を持つことで、精神的な部分の負担を軽減することができるのでは」「医師と患者は尊敬し合うことで病気が軽くなるのでは」という思いから、同会では花壇整備や懇談会、研修会等の機会を通し、医師や病院関係者との交流の機会を創り出そうとしています。

病院・地域医療の在り方そのものを考える

市内には同様に病院をサポートする市民団体は多数ありますが、同会の特徴は特定の病院ではなく、「花泉の地域医療」を対象にしていること。活動目的には「花泉地域の医療を守り、初期診療、入院、看取り医療などを育てるための取り組みを行う」とあり、花泉地域の医療体制を育てていく＝充実させていくためのお手伝いは、診療センターに限らず、地域内の個人病院も対象に入っています。「個人病院もお医者さん不足。お医者さんの養成が深刻な問題ではないでしょうか。若い人たちも一緒になって感心を持ち、行動しやすい環境づくりを考えていかなければいけない」また、「サポートする会の会員は年々増えていますが、活動を継続させることが大事なので、その責任を痛感しています」と宇津野さんは語ります。

「病院は‘赤字だからやめる’というようなものであってはならない」という共通の想いの下、今後も同会の活動は続いていきます。



花壇の整備活動の様子

地域 紹介



自治会長 佐藤仁一さん

～基本情報～

- ◆自治会長：佐藤仁一^{じんいち}さん（1期1年目）
- ◆新町会は昭和51年に発足した自治会で現在は55世帯141人が生活。弥栄側から北上大橋を渡ってすぐの場所に位置し、川崎市民センターや川崎図書館を中心に民家や事業所が立ち並ぶまち場の地域です。

皆さんが安心安全に暮らせる地域を目指して

歴代会長の後を継いで

「お世話になった恩返しです」。取材の中で何度もそう口にしたのは、新町会（新町自治会）会長を務める佐藤仁一さんです。副会長、総務部長、会計といった3つの要職を6年間兼務するなど自治会運営に携わり、その経験を積み「自分にできることがあるなら」と今年の4月に会長に就任。お仕事をしながら地域の活動をリードしています。「歴代の会長は皆一生懸命な方ばかりでした。私は力不足もありますが、皆さんの力を借りながら無理のない自治会運営に努めたい」と話す佐藤さんの言葉からは、謙虚ながらも地域を守り大切にしたいという温かい気持ちが伝わってきます。

今回はそんな佐藤さんにお話を伺いました。

住民の声から復元された井戸

新町会は、総務部、社会部、文化部、女性部、青年部、体育部の6部会で構成。各部の活動の中には、地区内にある公共施設や児童公園、特養老人ホーム、阿弥陀堂の清掃のほか、全住民の約4分の1が参加する春秋の一斉清掃などの環境美化・整備活動がありますが、このような活動には60代～70代の方も多く参加。佐藤さんが「新町には元気な高齢者が多い」と自慢するように、体力を要する活動にも積極的に協力するなど頼り甲斐のある先輩達に支えられています。

一方、子ども達の交流事業として昨年度から始めたのは夏休み中の「世代間交流・流しソーメン」。佐藤さん宅のそばにある井戸（通称「中井戸」）の冷水を使った流しソーメンで、周辺地区の子供会もご招待。青空の下、次々と流れてくる麺に箸をのぼしながら交流を楽しみました。

今は誰でも利用できる中井戸ですが、この井戸が復活したのは平成28年3月のこと。昔は地域一帯の生活

用水として活躍していましたが、水道の普及や施設の老朽化・故障により利用者が数人にまで減少。井戸の存在が地域で薄れていた中、東日本大震災が発生。一週間断水が続き、飲料水に不自由したという教訓から地域で井戸復元を求める声が高まり、一関市の「元気な地域づくり事業」で受けた助成金約100万円を施設整備費に活用。4自治会で保存会を立ち上げ、屋根や側溝などの一切を整備し震災5年後に復元されました。

『世代間交流・流しソーメン』は、保存会会長で新町会前会長である金野健男さんの発案。中井戸を住民の楽しみや憩いの場として利用すると共に、昔の井戸端会議のような集いの場になれば」と佐藤さんは今後の展望を語ります。

新会員を皆さんにご紹介

取材で資料を拝見していると「新会員加入のお知らせ」という文書が目にとまりました。佐藤さんは新しく転居してきた方がいると挨拶に行き、新しい仲間として名前や居住地区を皆さんに文書で紹介するなど、地域に馴染むための入り口をつくっています。佐藤さんは「住民が互いに声を掛けやすい雰囲気づくりを大切にしたいし、何気なくでも挨拶を交わせる関係が安心安全な暮らしに繋がるのではないかと話します。

「会員が皆協力的で支え合いの精神で活動に参加してくれること」を同会の強みに挙げる佐藤さん。「新町はまとまりがある素晴らしい地域。ここに暮らす皆さんが安心して暮らせる自治会づくりを目指していきたい」と笑顔で締め括りました。



初年度の世代間交流・流しソーメンの様子
子ども達の歓声が辺りに響きました

企業紹介



代表
伊東 清司 さん

～基本情報～

- ◆代 表：伊東 清司 さん
- ◆連絡先：〒029-3311
一関市藤沢町黄海字八景下 116
- ◆電 話：0191-63-3826
- ◆F A X：0191-63-4154

地域貢献とはなにか、改めて考えるきっかけ

大工を継ぐことを決意させた父の背中

一関市藤沢町黄海地区にある伊大建築は、屋内修繕や各種リフォーム、一般住宅建築などを担う、“まちの身近な大工さん”です。大工職人だった伊東さんの父が昭和50年頃に伊大建築を旗揚げし、その後、息子の清司さんが二代目として家業を引き継ぎました。

「私の父の世代（60代以上）の方々は、『手に職を持つ』という考えから大工になる男性が多く、実際町内にも、個人事業主の大工職人さんが多くいます。私は、父が平成24年に亡くなったため、30代で伊大建築の代表となりましたが、周りはほとんど年上の大先輩ばかりですよ」と語る伊東さんは、地元の高校を卒業後建築関係の専門学校に進学したものの大工とはかけ離れた職場に就職。それでも数年後、父に弟子入りし大工を継ぐことを決意したのは「小さいころから大工をしていた父親の影響が大きかったから」と伊東さんは振り返ります。

地域の魅力は人脈のつながり

大手建築企業と違い個人事業主である大工の強みは地域の人脈。町内の大工さん同士で情報を共有しながら、手伝いの必要な現場に向かったり、逆に手伝いが必要なときにはお願いをしたりとお互いの運営状況により人材のやりとりもしています。「同じ大工であっても得意な分野がさまざまなので、『あそこの〇〇さんならこんなことできるっけよ』なんていう情報もありがたい」と語り、「父が他界し、私が伊大建築を継ぎましたが、なによりも地域のみなさんや大工仲間を支えられてきました」と続けます。

現在の課題について「同年代や若い大工が地元が少ないこと」と語る伊東さんは、「私たち大工はものを

造ることが仕事ですが、地域に根ざす若手大工の育成も必要ではないか」と感じているそうです。

“つくる”ことで、地元貢献していきたい

藤沢町の特設会場で開催される夏の一大イベント、「縄文の炎・藤沢野焼祭」。今年は8月12日～13日にかけて開催されました。このイベントの中でひときわ注目を集めたのが、“特設ボルダリング”です。

この特設ボルダリングは藤沢町住民自治協議会の中の若者チーム「FEST」が「野焼祭りをもっと楽しめるイベントにしたい」という思いから提案し、話し合いを重ね実現したもので、その設置に伊大建築さんが全面協力しました。伊東さんは、「お話を受けたときは正直ビックリしました。仕事でしか物事を考えていなかったもので、ものをつくるのが“地域貢献になる”と思っていませんでしたから。地元の若者が集まり色々なことを考えながら、事業を展開できたことに少しでも携わることができ本当に良かった」と語る伊東さん。

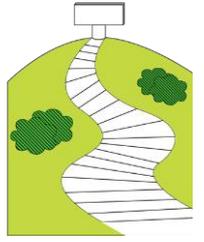
「藤沢町住民自治協議会のことや若者チームのことをこれまでは『どこか別世界の話』という感じでいましたが、今回イベントに関わることで『地域づくり』を知るきっかけにもなりました。今後も地域を盛り上げる提案があればぜひものを“つくる”ことで地元へ貢献していきたい」と力強く語っていただきました。



野焼祭り当日は残念ながら雨降りでしたが、子ども達に大人気となったボルダリングでした。

センターの〇〇!

センター内でアイドルグループ「乃木坂 46」の話題から、「そういえば都会の方では、〇〇坂って多いよね？」という流れに。それでは「わがまち一関には？」と考えてみたのですが、中山間地を有するため坂道だらけの割には、意外に坂の名前が知られていない気がします。そこで今回は通称「〇〇坂」と呼ばれている坂を調査することに決定。調査結果の中から旧市町村ごとにスタッフが勝手にチョイスした「〇〇坂」を、名称の由来となるエピソードとともに紹介します。



今回は、市内協働体アンケートや市民フェスタでの公開アンケートで寄せられた54カ所の坂の中から、地域ごとに担当者が1つ選び通称「〇〇坂」の場所を実際に歩き、名称の由来について聞き込みを行いました。

※坂の名称、由来などは諸説あるようですが、今回紹介するものはあくまでも当センターの独自調査によるものです。

東山：ごりんざか 長坂字里前

「坂の途中に五里塚があったことから、いつしか『ごりんざか』と呼ばれるようになったのでは？」という、400mほどの細い坂。子どもたちの声が響く通学路だった坂もスクールバスの時代で少し寂しい影が…。

大東：乙女坂 摺沢字堀河ノ沢

岩手県立大東高校へ向かう坂、通称「乙女坂」。摺沢家政女学校があったから「乙女」という名がついたのでは？という説もあったが、「高校にたどり着くまでに息切れがすることと、乙女の恋心のドキドキ感をかけて乙女坂と言う」が有力説。

千厩：ダンノキ坂 清田字境

清田の花の駅裏から清田小学校裏へ続く坂道。国道284号線ができる前の旧気仙沼街道だった。由来は不明だが、よく日が当たる道なので「ダン」の字は「暖」ではないかという説がある。

一関：女殺し坂 真柴字蔵主沢

山道入り口（写真①）から約500m登った先にある「女殺し坂」（写真②）。ここでは昔「昔、暗がりの坂で男が愛する女を誤って殺してしまった」という悲しい民話が名称の由来とされている。

室根：どっこ坂 折壁字聖沢

「どっこ様」と呼ばれる子宝の神様(男の神様)が近くにあることから「どっこ坂」と呼ばれるようになったのではないかとのこと。古い旧道で、現在は坂に隣接する家の人たちがすらすら減多に通ることはないらしい。室根山が前方に見える。

川崎：八幡坂 薄衣字八幡

泉沢自治会集会所の道路の向かい側にある坂で、地元では「藤崎線」「二日町線」とも呼ばれている。坂（写真①）の途中には八幡神社（写真②）に続く道もあり、昔は山仕事を行う人や荷物運びの馬など多くの人々が行き交う主要道路だった。

花泉：馬越坂 永井字西狼ノ沢

現在は田んぼだが、かつては坂の下まで沼があり、船で荷物を運んでいた。対岸等から運ばれてきた荷物を、この坂を登って町に持って行くが、当時は険しい山道だったため、馬の背に荷物をつけて運んだ。そのためか、地名にはないが、この地区そのものが馬越と呼ばれている。

藤沢：我慢坂 西口字荒巻

西口地区の白沢神社へ行くために急な勾配を我慢して登ったことから名づけられた。60年程前までは使われていたが、現在残っているのは入口（写真①）のみで、道は草木で隠れており（写真②）、屋号として名前が使われている。

地域の主要な生活道路などでいつしか呼ばれるようになった〇〇坂。その多くは新しい道路が整備されたり、道路そのものがなくなったことでその名前を知る人も少なくなりました。もしかしたら普段何気なく通る坂にも、実は何か名前がつけられているかもしれませんね。

おしらせ

一関 さくらなみき自閉症美術館 企画展 きららアートコレクション巡回展

毎年約2,000人が来場する障がいをもつたの芸術作品展「いわて・きららアートコレクション」に展示された作品の中から、選りすぐりの作品の展示を行ないます。珠玉の作品がコレクションされた期待の展示内容をお楽しみに！

【期間】平成29年10月10日(火)～11月26日(日)
【場所】さくらなみき自閉症美術館
※休館日や開館時間は下記問い合わせまで。
【料金】入館料無料
【問合せ】0191-48-3622(場所と同じ)

一関 新垣勉 おしゃペリコンサート7

テノール歌手の新垣勉さんは、生後間もなく不慮の事故で両目を失明し、両親の離別や祖母の他界により14歳の若さで天涯孤独の身となりました。現在は逆境を乗り越え、自分を救った音楽の素晴らしさを伝えるコンサートを全国で行っています。大人のご来場大歓迎。

【日時】平成29年11月7日(火) 開場13時 開演14時
【場所】一関文化センター大ホール
【入場料】一般3,000円、学生2,000円、
福祉券1,000円
【問合せ】090-5231-4333(吉田)

一関 カグラ・オドル 鶏舞教室

皆で一緒に鶏舞を踊ってみませんか？昨年大好評だった鶏舞教室を今年も開催します。初めての方も経験者の方も年代問わず大歓迎！※なお、一関中心部で鶏舞を鑑賞できる「カグラ・まち・めぐる」を11月25日(土)・26日(日)に別途開催します。

【期日】平成29年11月11日(土)、18日(土)
【時間】19時～20時30分(両日とも)
【場所】ガレージホール(一関市田村町3-45)
【料金】参加無料
【問合せ】0191-21-0684(メール、電話共に実行委員会宛)

花泉 花と泉の公園 スイーツバイキング

ベゴニアの花観賞と一緒にスイーツを楽しみませんか？ベゴニア館の入館料込みの料分で、90分間スイーツが食べ放題です。エディブルフラワー(食用花)や、パスタなどの軽食もご用意しています。

【期間】平成29年11月18日(土)～19日(日)
【時間】10時～15時
【場所】花と泉の公園ベゴニア館側レストラン
【料金】大人1,480円、子供840円、3歳以下無料
(ベゴニア館の入館料込み)
【問合せ】0191-82-4066(場所と同じ)

大東 第17回 京津畑まつり 食の文化祭

山里の食文化展示と大試食会。甘酒や漬物、果報団子振る舞い(無料/限定500食)、「全国もちサミット2014」でグランプリを受賞した「やまあいのお雑煮」などが食べられる産直&屋台コーナー、秋祭りステージコーナーなどお楽しみが盛り沢山！お誘いあわせの上お越しください。

【日時】平成29年11月19日(日)10時～13時40分
【場所】京津畑体育館(大東町中川字上ノ山)
【料金】入場無料
【問合せ】0191-74-4888(京津畑交流館「山がっこ」)

千厩 花泉 第7回かやぶき祭り

古来日本の趣を感じる茅葺民家でお祭りをを行います。午前中は餅つき振る舞いのほか、福井県在住の忍術研究家 川上仁一さんによる忍者講演と実演、午後は雅楽演奏や鶴浦家の見学などを行います。どなたでもお気軽にご参加ください。

【日時】平成29年11月26日(日)9時～16時30分
【場所】午前:岩手県指定文化財 村上家
午後:鶴浦有三宅(花泉町涌津亥年前229)
【料金】入場無料
【問合せ】0191-24-4418(村上)

一関 ツリークライミング ミニ体験会

専用のロープやサドル(安全帯)、安全保護具を利用して木に登り、木や自然との一体感を味わう「ツリークライミング」。障がいの有無に関係なく楽しめる活動として乗馬会を行っているパカポクラブにてミニ体験会を開催します。事前のお申込み(3日前まで)でどなたでも体験可能です。

【日時】平成29年11月26日(日)13時～15時
【場所】佐々木牧場(中里字大平山23-76)
【料金】小学生以上1人800円(30分程度)
【問合せ】080-1841-1800(佐々木)

川崎 第2回 自治会長サミット

自治会運営に携わること本人から皆さんに「自治会運営のコツ」をご紹介します！今回は「関が丘5民区(一関)」と「丑石自治会(大東)」の2自治会に発表いただきます。一関市内の自治会長または準ずる役職員(民区長、集落公民館長)の方が参加できます。

【日時】平成29年11月28日(火)
13時30分～16時30分
【場所】川崎市民センター
【参加料】無料
【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

千厩 お婿さんいらっしやい

婿養子、婿入り、お相手の家族と同居可能な方、結婚後独立して生活が可能な男性との婚活イベントです。対象は、20代～40代の独身男女各30名。申込締切は11月26日(日)です。※女性は事前セミナー(12月2日(土))への参加が必須です。

【日時】平成29年12月10日(日) 開会11時
【場所】マリアージュ(一関市千厩町)
【参加料】男性4,000円 女性3,000円
【問合せ】0191-48-4677
(一関結婚活動サポートセンター)

今月の表紙



「センターの〇〇！」の企画「おらほの〇〇坂」の調査で室根の旧街道を地元の方にご案内していただいた時に教えていただいたこの石。みなさん、何を連想しますか？そう、1975年のアメリカ映画『ジョーズ』に出てくるあの巨大なサメ！室根に行ったらぜひ探してみてくださいね。

Q & A あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q イベントで、食べものを出したいのですが何か許可は必要ですか？

A 提供する商品の種類や材料によっては、「臨時営業許可」を取得する必要がある場合があります。許可が不要な場合もありますが、まずは条件(販売の有無、調理の有無、提供する商品の種類、材料、調理・提供する場所の環境など)を一覧にしてまとめ、開催場所を管轄する保健所に事前相談しましょう。許可の要不要、商品の可否、申請方法などを指導してもらえます。申請から許可証の発行まで時間がかかる場合もありますので早めに相談することをお勧めします。

